国語科学習指導案

場　所　２年３組　教室

授業者　平賀　基暉

１　日　時　　令和３年　１月　２６日（火）　３校時

２　学　年　　第２学年３組（男子１７名　女子１７名　計３４名）

３　単元（題材）名　「タウン誌の記事を推敲しよう」　　[東京書籍]

４　単元（題材）設定の理由

（１）単元（題材）観

本単元は，中学校学習指導要領国語(平成２９年告示)[知識及び技能]の「(１)オ　単語の活用,助詞や助動詞などの働き,文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに,話や文章の構成や展開について理解を深めること」[思考力,判断力,表現力等]のＢ書くことの「（１）エ　読み手の立場に立って,表現の効果などを確かめて,文章を整えること」の能力の育成をねらいとして設定している。[知識及び技能]の「(１)オ　単語の活用,助詞や助動詞などの働き,文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに,話や文章の構成や展開について理解を深めること」とは，例えば，記事など文章の内容を読み取る際,単語や付属語の選択による伝わり方の違い，語順や照応によって表現がどのように変わってくるかを,様々な文型にについて考え,理解し,これを通して文の成分の順序や照応などの文の構成について着目させることと捉えている。また, Ｂ書くことの「（１）エ　読み手の立場に立って,表現の効果などを確かめて,文章を整えること」とは,記事などの原稿を書いた際,自分の考えを伝えたり印象付けたりするうえで,書いた文章の表現がどのように働いているかなどを確かめたり理解したりすることであり,説明や具体例,描写などに着目して,これらの表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか,どのような効果を生んでいるかなどについて読み手の立場から検討し,誤解のない表現やより効果的になる表現にしていくことと捉えている。

これらの力の育成にあたり，本単元の価値は次のとおりである。一つ目は，本単元は，タウン誌の記事を推敲する例題,演習課題として提示されており,そのため,その記事の内容に適している言葉か,興味をひかせるための文章の文の成分の順序や照応,記事の内容や文章の構成について考え,理解する必要がある。二つ目は,本単元は,記事を推敲するという設定から,読み手の立場に立って,自分の伝えたいことを意識させて推敲させるものであるといえる。そのため,説明や具体例などに着目し,自分が伝えたいことが誤解がなく伝わる表現,より効果的な表現にするための推敲をすることができる。

以上のことから，ねらいを達成するのに適した単元であると考える。

（２）生徒観

　　本学年が今年度７月に受けたNRT標準学力調査において，「課題を決め，整理して書くこと」という項目の本学級の正答率は79.3％と，概ねできている。また生徒に「書くこと」に関するアンケートを実施したところ，「文章を推敲することは大切だと思う」と答えた生徒は97％とほとんどの生徒が文章を書く際の推敲の重要性を捉えている。しかし，CRT標準学力調査において「表記や語句に注意して書くこと」という項目の正答率は49.1％となっている。特にその項目の「推敲」の問いは49％，「レポート考察」の問い57％と正答率は高くなかった。また,アンケートでは「推敲するときは,文章の構成も意識している」と答えた生徒は73.5％とやや低かった。これらのことから，この単元における生徒の課題は次の二点が考えられる。一つ目は，文章の内容に適した語句の選択,描写をしたり,構成を意識したりすることが定着していないこと。二つ目は，読み手や目的を意識して,効果的な表現や構成を意識して推敲しようとすることである。

（３）指導観

指導にあたっては，一つ目の課題「文章の内容に適した語句の選択,描写をしたり,構成を意識したりすること」については，例題や課題を通して,推敲するだけでなく,なぜそのように推敲したのかの理由まで考えさせ,適した語句の選択や描写の重要性を理解させていきたい。二つ目の課題「読み手や目的を意識して,効果的な表現や構成を意識して推敲しようとすること」については，生徒が身近に感じ，具体的な目的意識を持てるように総合的な学習の時間に行っている地域の伝統を伝える活動である「組曲西條」と関連させた「組曲新聞の原稿を推敲しよう」という言語活動を設定した。それにより，より具体的に読み手にどのようなことを伝えたいかという目的意識をはっきりとさせ,推敲させるようにしたい。また,「『正しい』言葉は信じられるか」で学習した事実の述べ方による,読み手に与える印象の違いについても踏まえた上で,効果的な表現や構成を意識して推敲させるようにしていきたい。

５　単元（題材）の目標

○単語の活用,助詞や助動詞などの働き,文の成分の順序や照応などの文の構成について理解することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【知識及び技能(１)オ】

○書くことにおいて，読み手の立場に立って，表現の効果などを確かめて，文章を推敲することが

できる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考力・判断力・表現力Ｂ(１)エ】

○言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思い

や考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　 【学びに向かう力，人間性等】

６　単元（題材）の評価規準「Ｂ」（「おおむね満足できる」と判断される状況）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ア　知識及び技能 | イ　思考・判断・表現 | ウ　主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 言葉の働きや描写,文,文章の構成を理解して記事を推敲している。(１)オ | 1. 「書くこと」において目的・読   み手を意識し,推敲のポイン  トをふまえて,記事を推敲している。Ｂ(１)エ | 1. 読み手の立場に立って,文章の言葉が適切か考え，学習課題に沿って，推敲しようとしたり，考えを語り合おうとしている。 |

７　本単元における言語活動

読み手の立場に立って「組曲新聞」の記事を伝わりやすいように推敲している。

（関連：【思考力・判断力・表現力(１)エ】）

８　指導と評価の計画（全５時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １  ・２ | ○「組曲新聞」の記事をより良くするために推敲の仕方を学習する見通しをもち、例題を推敲する。  ○例題を推敲することによって，推敲する時のポイントに気付かせる。（本時） | 【知識及び技能】➀  【思考・判断・表現】➀ | ワークシート  発表の様子 |
| ３・４ | ○「組曲新聞」の部門紹介記事を読み，推敲のポイントを意識して，推敲する。(２) | 【知識及び技能】➀  【思考・判断・表現】➀  【主体的に学習に取り組む態度】➀ | ワークシート |
| ５ | ○推敲した記事を交流し，単元で学習したことについて確認する。 | 【主体的に学習に取り組む態度】➀ | 交流の様子 |

９　単元の流れ

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法 |
| １  ・２ | ○「組曲新聞」の記事をより良くするために推敲の仕方を学習する見通しをもち、例題の文章を推敲する。  ○例題の推敲した点を，発表させる。  〇自身の推敲や共有した内容から，推敲するときのポイントをまとめる。 | ・現時点で，推敲するときに気を付けている点を振替させる。  ・学習イメージを持たせるために例題を出し，全体で推敲し，モデルを示す。  ・推敲した内容だけでなく，その部分を推敲しなければならなかった理由と推敲することによって，どのような効果が得られるかも発表させる。 | 【知識及び技能】➀  【思考・判断・表現】➀  ワークシート  発表の様子  ここでは，例題を通して，言葉の選択や文章の構成の違いが，読み手に与える効果について捉えているかを確認する。  ※本評価は，Ａと判断する状況については，３・４時での記事の推敲と後期期末試験の問いにおいて判断する。 |
| ３・４ | ○「組曲新聞」の部門紹介記事を読み，前時で確認した推敲のポイントを意識しながら，記事の文章がより効果的に伝わるように推敲する。 | ・推敲するときのポイントを意識できるように、復習を兼ねて，ポイントを板書する。  ・「組曲」をよく知らない人が読んでも分かりやすい記事になるよう，読み手の立場を意識するよう指導する。 | 【知識及び技能】➀  【思考・判断・表現】➀  ワークシート  ・ここでは，効果的な言葉を選んだり、文章の順序を考えたり，できているか。また，読み手や目的を意識しながら、記事を推敲しているかを確認する。 |
| ５ | ○推敲した記事を交流し，単元で学習したことについて確認する。 | ・推敲するときのポイントを意識して，推敲できているか確認するように指導する。  ・交流で指摘された意見を参考にさらに推敲するように伝える。 | 【主体的に学習に取り組む態度】  交流の様子  ・ここでは，班の人の文章を読む際にも，推敲のポイントを意識し，気付いた点や自分の考えを語り合おうとしているかを確認する。 |

１０ 本時の展開（第２時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 本時の目標　より効果的に伝わるように推敲する時のポイントを理解することができる。 | | |
| 学習活動 | 指導上の留意事項（◇）  ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準[観点]  （評価方法） |
| １．単元のまとめとして,「組曲新聞」を推敲することを確認する。  ２.今日のめあてを確認する。 | ◇より魅力的な文章にするために推敲することを伝える。  めあて  ○より効果的に伝わるように推敲するポイントをまとめよう。 |  |
| ３．推敲ワークシートで自分の推敲を確認させる。  ４．ペアで交流し，推敲内容を  確認させる。  ５．推敲した文と  理由を発表させる。  ６．発表した意見から推敲の  ポイントをまとめる。 | ◇推敲した部分だけでなく、なぜ推敲したのかの理由も考えられているか確認する。  ◇推敲した部分だけでなく、理由も意識しながらペアで交流するように伝える  ◆理由が明確にならない場合は，推敲前と  後を比べて，何が変化したかを促す。  **推敲のポイントのまとめ**  ・興味をひく，タイトルや書き出しの工夫。  ・不要な情報は削除する。  ・伝わりやすい順序かどうか検討する。  ・より効果的な言葉の選択をする。  ・会話文などを使用し，臨場感を出す。  ・読み手，目的にあった情報を意識する。 | **予想される生徒の意見**  ・不必要な情報の削除→話題とは関係ない情報だから。  ・文の順番を変える→構成の順序を変えた方が分かりやすいから。  ・具体的に情報を書く→組曲について詳しくない人も読むから。  ・もっと合った言葉に変える→悪い印象を読者に与えてしまうから。  【ア①言葉の働きや文,文章の構成を意識して記事を推敲している。（ワークシート，発表の様子）】  【イ①「書くこと」において目的・読み  手を意識し,推敲のポイントをふまえて,記事を推敲している。】 |
| ７．　今回，まとめた推敲のポイントに気を付けながら，組曲新聞を推敲することを伝える。 |  |  |